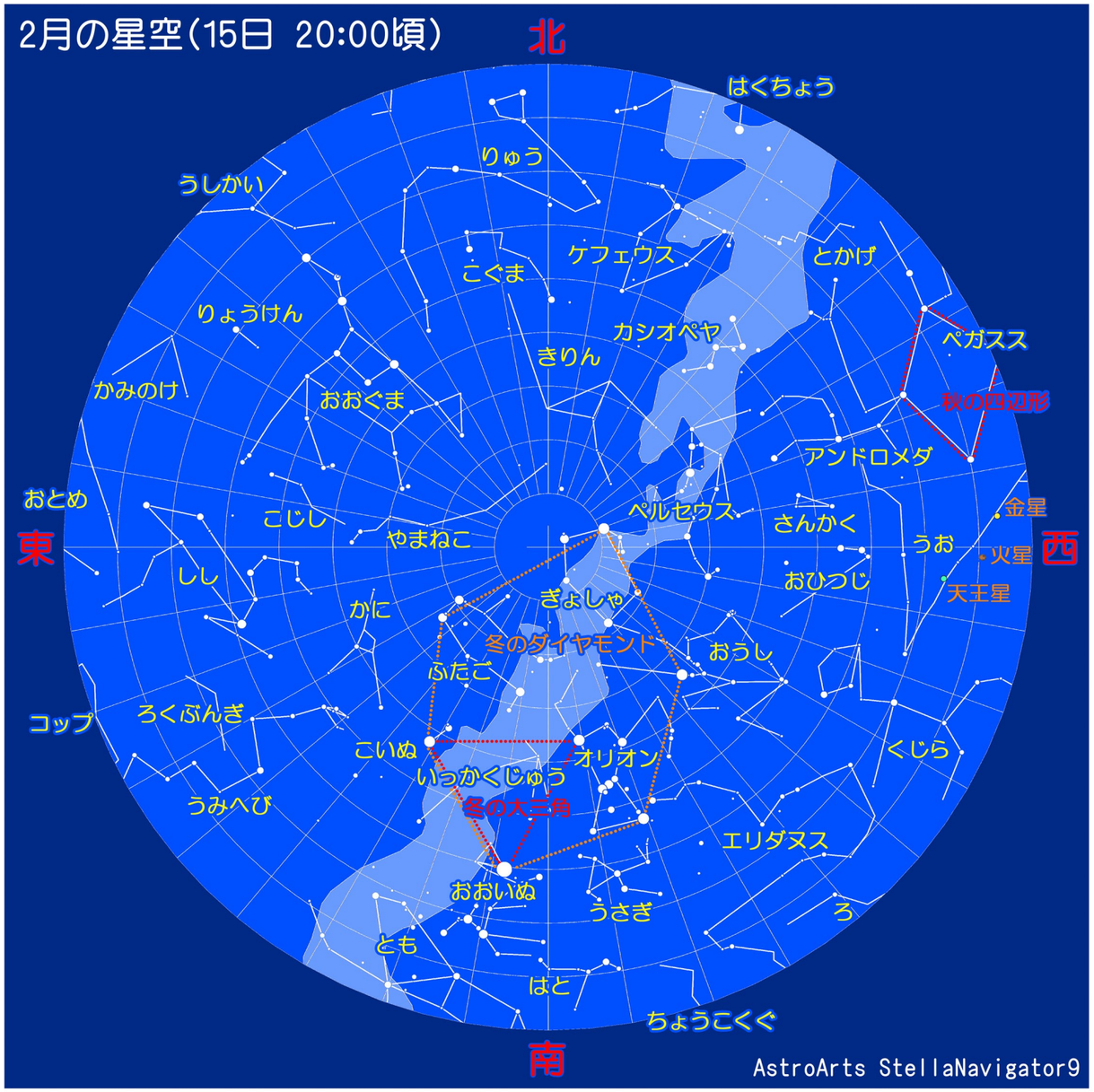
銀河の森天文台
2017年2月のみどころ天体情報

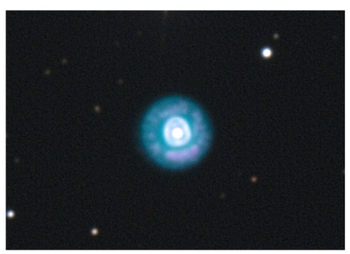


今月のイチオシ！

☆NGC2392（惑星状星雲）

ふたご座にある惑星状星雲で、1787年にウィリアム・ハーシェルによって発見されました。毛皮のフードを被ったエスキモーの様な姿から「エスキモー星雲」と呼ばれています。

望遠鏡ではわずかに緑がかった青色が美しく印象的です。空の条件が良ければ、毛皮のフードの部分の模様も見えてきます。


NGC2392

月

		出	没
4日	◐上弦	10:34	--:--
11日	○満月	17:06	06:25
19日	◑下弦	00:14	10:38
28日	●新月	06:03	17:13

天文台から月を見ることができるのは1～13日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

金星

宵の明星として日没後の西の空に明るく見えている金星が17日に最大光度となります。このころの金星は天気が良ければ昼間でも肉眼で見ることが出来ます。見つけるのは難しいですが、挑戦してみましょう。

太陽からの距離：約1億800万km

M1（超新星残骸）

おうし座にある星雲で、かに星雲と呼ばれています。これは1054年に出現した超新星の残骸で、このときの超新星爆発は、日本でも「明月記」のなかに記録が残っています。

距離：約7200光年

M35（散開星団）

ふたご座のお兄さんの足元に位置する、明るく大きな散開星団です。約500個の星からなり、15cm双眼鏡では、微光星が密集した見事な姿を見ることが出来ます。

距離：約2850光年

M42（散光星雲）

オリオン大星雲と呼ばれ冬を代表する天体のひとつです。望遠鏡では星雲のの複雑な模様を観察することができます。中心部には生まれたばかりの４つの星（トラペジウム）が四角く並んでいます。

距離：約1400光年

M43（散光星雲）

M42のすぐ北側、鳥の形星雲の頭の部分がM43です。

M42とM43は同じ星雲の別々の部分にそれぞれ番号をつけたものとなります。

偶然にも、鳥の目の部分に星があるのも面白いですね。

距離：約1400光年

シリウス（恒星）

おおいぬ座の１等星シリウスは、全天で一番明るい恒星です。ベテルギウス、プロキオンとともに、冬の大三角を形作っています。

シリウスは実視連星で、伴星として白色矮星を伴っています。

距離：約8.6光年

ちょっとマニア

・うさぎ座Ｒ星

クリムゾンスターと呼ばれ、非常に赤い色をしています。

この星は炭素を多く含んでいる炭素星で、そのために通常の星よりも赤く輝いています。

距離：約817光年

その他おすすめ

- M37（散開星団）
- M44（散開星団）
- M45（散開星団）
- M46・47（散開星団）
- NGC1514（惑星状星雲）
- ベテルギウス（恒星）
- アルマク（重星）

2・3月の銀河の森天文台カレンダー

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

開館時間

14:00～22:30
（4月～9月）

13:00～21:30
（10月～3月）

休館日